

退任のごあいさつ

中嶋康裕

日本動物行動学会会員のみなさま、明けましておめでとうございます。

この度、2期4年の任期を終え、辻和希会長や新執行部、運営委員のみなさまに職務を引継ぎました。坂井陽一さんはじめ事務局のみなさま、副会長を務めていただいた小汐千春さんと工藤慎一さんの両名には任期中さまざまな形でお力添えいただき、心から感謝いたします。

就任にあたり、私がやろうとしたのは、むしろ後ろ向きとも言える事案でした。日本動物行動学会は設立以来、形式や伝統にとられることなく、常に新たな試みに取り組んできました。設立会員である私にとってはその間の歩みや変革はごく自然なことで、何も違和感を感じていませんでした。それに、多くの本学会員にとっては過去を振り返るよりも前に進もうとする気持ちが強く、立ち止まることなく、前へ前へと進んできたように思います（たとえば、本学会ではx周年記念大会といった行事をほとんど行ってきていません）。しかし、この間には小さな矛盾や不都合も少しずつ積み重なってきていました。特にここ10年ほどで急速に進めた事務処理のデジタル（電子）化によって、アナログ（紙媒体）時代に蓄えられた情報との断絶が生じたままになっていることは解消すべきだと考えていました。さらには、沓掛展之さんに過去のNewsletterをpdf化していただいたこと、科学史を専門とする、勤務校の同僚から歴史を記録することの大切さを学んだことが加わり、本学会の歴史をまとめておくべきだと考えるに至り、ワーキンググループのみなさまの御協力によって失われつつあった歴史をなんとか掘り起こすことができました。また、（継続審議中ですが）会則上の不都合の解消にも取り組みました。これらは、若い運営委員や会員よりも年配の委員が取り組むべき責務だと考えたためです。

残念ながら、在任中にすべての問題を解消できたわけではありませんが、今後はより前向きな課題に取り組んでいただき、本学会をますます発展させていただくことを願っています。私自身もこれで会員を辞めるつもりはなく、一般発表やラウンドテーブルの開催などでもっともっと盛り上げていきたいと考えています。